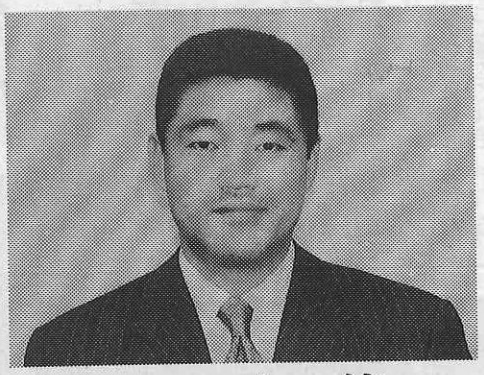
新社長インタビュー

もっと沢庵を若い人に

株式会社 山傳

代表取締役 大野良和氏



11月18日に行なわれた取締役会で新社長に就任した。先代から受け継いだ伝統を、どう引き継ぎ展開させるか。周囲の視線も熱く、責任はずっしり重い。バスケットで鍛えた188㎝の偉丈夫だが気配りは細やか。会話のテンポもバスケットの動きのようにメリハリが利いて小気味がいい。今後の抱負を聞いた。

――社長就任の感想から聞かせてください。

■私が社長になっても代表が二人になったということで今までと変わりはありません。前社長からすれば、楽な時でなく厳しい時に譲れば良い経験になるだろう、と考えています。デフレ、中国産原料の大量流入などで私達のお客様の層が変わっています。私は、その中で20代、30代の若い主婦の方々に沢庵を認知してもらいたいと思います。そうでないと、その子供さん達が成人する頃には沢庵はもっとだめになります。子供達がスーパーに行けば美味しい沢庵が買える、ということを知ってくれれば沢庵にまだ未来はあります。

――社長になるまでの経緯をお話し頂けますか。

■今年で入社して6年目です。最初の2年間は群馬工場に勤務していました。その後、本社で1年間、総務、経理を担当し、一昨年再び群馬に行きました。以来、今年の3月まで営業、製造を担当し本社に戻り、11月に先代から社長を引き継ぎました。

――業界の展望と山傳さんの今後について抱負をお聞かせ下さい。

■沢庵業界の将来は、なかなかビジネスモデルが出てこない、というのが正直なところですが、私共では、沢庵独特のにおいを抑えた商品を開発し、今年3月にセルフマーケット協会の展示会にも出展しました。売れないと嘆くより、新商品の提案や売り方の提案で我々がやるべきことは沢山あると思います。私達は製造と平行してベンダー業もやっていますので、それを活用して年齢層に応じた商品提供をもっとやっていきたいですね。

私の信条は「頑張り過ぎない」ということです（笑）。今は前社長の時代とは違いますから時代に即した手法があると思います。

――ご活躍を期待しております。

追記　昨年の夏からゴルフも始めた。バスケットの素養も活かし素質も十分のようす。組合の先輩達のアドバイスも多く上達は早そうだ。

昭和40年6月8日生まれの37歳。法政大学社会学部卒。

紀州本場
お梅はん
紅梅漬・生姜漬
関本宗一商店
〇七三九-七四-三〇九〇㎜